

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2405 号

腰椎手術後疼痛症候群に対する後仙腸靱帯ブロックの効果に関する後方視的検討

(The Sacroiliac ligament' s block is retrospectively evaluated on FBSS)

松本 園子 (まつもと そのこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

腰椎手術後に再度腰痛・下肢痛が出現する腰椎手術後疼痛症候群 (failed back surgery syndrome ; FBSS) の治療には苦慮することが多い。今回当院外来で FBSS 患者での難治性腰下肢痛に対する後仙腸靱帯ブロックの有効性を検討した。

2010 年 4 月～2016 年 3 月の 6 年間に当科に初回受診した FBSS 患者 64 症例の内、仙腸関節関連痛と認められた 55 症例について後仙腸靱帯ブロック後の NRS (numerical rating scale) の経時的変化、罹患期間、罹患部位、下肢痛の有無などについて検討した。

FBSS 患者、全 55 例の平均年齢は 71.7 ± 12.0 歳であった。両側性 17 例、片側性 38 例 (右側 22 例、左側 16 例) であり、男女比は 28:27 で有意差は認められなかった。腰椎術後から腰痛発症までの期間は 9 日間から 30 年であり中央値として 18 か月であった。

臨床所見から仙腸関節関連痛が含まれると診断された症例は 55 例で、全例に後仙腸靱帯ブロックが有効であり確定診断された。ブロックの効果は 55 例中 47 例に単独で有効 (85.5%) で、他の 8 例については単独では不十分なため硬膜外ブロックや神経根ブロックなど他のブロック治療を併用した。

1 回目のブロックで 50%以上の NRS の改善を示した症例は 53.2%(25/47)であった。

後仙腸靱帯ブロックは FBSS の治療に対して有意に疼痛を軽減し、診断的ブロックとしても治療としても有効であり、FBSS には少なくない割合で仙腸関節関連痛が含まれていた。